2024年（R6年）
3月
No. 381

ひとはつうしん

（題字：三井 裕森）

（ホームページアドレス）http://hitoha-fukushi.com （メールアドレス）honbu@hitoha-fukushi.com

誰でもが楽にくらせる社会を…
HITOHA

社会福祉法人 ひとは福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

ひとはのある地域には、とんどのような年に1回の行事もあれば、2か月に1回開催される常会なるものがあります。常会には住民の方が集い、連絡事項や交流など様々な機能があります。

ひとは創設39年、生活の場である共同ホームが開所したのは20年以上も前になりますが、常会へは地域に住む職員が参加することはあっても、ひとはとして行くことはありませんでした。昨年末、地域の方に「ひとはも常会に参加するか？」と声をかけられ、5名のきららが初めての参加。皆これまで見たことのない？ような、真剣で緊張した面持ちで一人ひとり挨拶をしました。

「こりゃあまた※えらい、ようけぇで来たのぉ」「バス停でよう会うねぇ」と声をかけてもらいました。

ひとは長屋の次郎水さんが「ここの地域（長田下地域）で暮らしたい。知り合いもおるし」と。ひとはを通して出会った地域の方のさりげなさ、温かさが引き出した想いです。

ここも彼らにとって、自ら望む地域で安心して生活できる場所なのだなと思います。

SNSやスマートフォンで簡単に情報発信できる世の中になりましたが、手書きで作るひとはつうしんは未だに1300部を超える発行部数です。つうしんを通してひとはを感じてくださっている方に、もっとひとはを身近に…との思いで、来年度中に後援会の方に会員カードを発行する予定です。カードの特典は…お楽しみに。

※えらいようけぇで…すごくたくさんで

（事務局 寺尾 真）

田中 快斗さんにインタビュー

田中 快斗さん

（絵：池岡 心）

田中さんはひとは福祉会に入られる前、安芸高田市地域おこし協力隊として活動されていました。

― 出身はどちらですか？

島根県です。幼少期から神楽が好きで、舞っていたこともあります。

― 協力隊の活動は何をされていたのですか？

高校を卒業し、小売店の鮮魚部門で働いて5、6年経った頃、自分の好きなことにチャレンジしたいと思い、たまたまSNSで募集を見つけて「コレだ！」と即決しました。

- 毛利元就の里ということで、甲冑を着て道の駅でおもてなし
- 道の駅でレンタサイクルの規約やマップづくり
- 神楽門前湯治村の定期公演があるので、神楽初心者や県外のお客さんに神楽の面白さをPR

主にこの3つの活動をしていました。甲冑が話題となり、テレビ、ラジオ、雑誌、新聞などなど年間50くらいの取材がありました。

― 協力隊の活動を経て、ひとはに入られて5か月くらいでしょうか。

不安しかなかったんですけど、寺尾真さんの"福祉のプロにならなくていい、ひとはのプロになってほしい"という言葉を聞いて、プレッシャーがなくなりました。毎日同じことがなく、とにかく濃いです。家に帰るより、ホームに来た時の方が帰ってきたなーと感じます。人対人の仕事をする中で、ホームは急かされることがなく「早く早く」と言われてしまうと怪我に繋がったり、きららのペースを乱したりしてしまうので、その雰囲気は良いなと思っています。

（絵：河野大輔）

ひとはの日々

旅行を楽しむ。
（字：小野 健一）

「愛の告白!?」

4年ぶりの工房新年会を大々的に行った。かくれんぼやお菓子食い競争、カラオケ…趣向を凝らした企画が盛りだくさんの工房らしい笑いの絶えない新年会となった。

終盤に差し掛かり、服部さんがマイクを手に「あの～出田さんに告白したいことが…」と言われ、ドキドキしながらステージに上がると「実は私…出田さんのこと…、ひとはに来てくれて良かったです」

…ん？愛の告白かと思っていた私はうれしいやら恥ずかしいやら…。でもやっぱり「あんたがおってくれてよかった」と言われたようでうれしい!!

服部さんありがとう。そして、これからもよろしく!!（ひとは工房　出田 広志）

「クレープ作ってみたい」

家でおやつ作りがブームな梶山君。掃除が終わり自由時間になると「本読もう」とおやつ作りの本を持ってきます。一緒に見ている中で「クレープ作ってみたい」と話しました。作り方を確認し、「材料を混ぜたり切ったりするところはできるね」と伝えると納得していました。

お母さんが迎えに来られると、おやつの相談をしていました。すると、土曜日は映画に行くから、日曜ならできるよと応じられていました。話し合うことは大人になってもとても大事なことなので、日ごろからのやり取りで学んでいくのだなと思います。

（ひとはぼっこ 山崎 真志郎）

「旅行前のワクワク」

作業所の旅行を目前にきららはワクワクを隠せない。なんといっても4年ぶりの旅行だ。スタッフの中には、私も含めきらら旅行に行ったことがない人も多い。

ワクワクと不安が入り混じる。黒瀬瑞希さんは毎日のように「安徳さん、旅行の宴会で中田さんとお笑いやりたい」と言っている。「どんなネタにしますか？」と聞くと「えっとね、あったかいんだから～と、なんでやねん！と、そんなの関係ねえ！やりたい。安徳さん、台本書いてね！」全身を使ってリズムネタを練習する黒瀬さんの姿にこちらもワクワクしてくるとともに、台本書いてね、という言葉にわずかな不安が残る

（ひとは作業所　安徳哲）

当日の宴会は水田さんの漫才でシーンとなり、カラオケで盛り上がった！

ひびきあう（字：三上潤子）

令和元年度 発行　ひびきあう 改訂版

「相談すること」

大番　有記

ひとは福祉会で働き始めて１年。日々、子どもの成長の「すごい」を感じる一日一日が濃い１年になりました。

ぴあ・くらぶ（スマイル）での事です。通い始めたばかりのＡくんは自分の思いが上手く伝えられずに、思いと違うことがあった時や分からないことがあった時には固まってしまい、周りの声掛けにも反応できずにいました。自分の思いを言葉で伝えられるようになってほしいなと関りを続けていました。

そんなある日、スマイル（児童発達）に通所すると、今日の日にちの所にシールを貼ることになっているのですが、月が替わったので新しい紙をもらわないといけません。「紙ないね。どう言ったらいいかな？」と聞いてもすぐには返事はなく、以前、同じような場面で言葉が出ずに長い間、固まってしまったＡくん。どうなるかな？と様子を見ていました。少しするとＡくんが「分からん。」と一言。

「分からん」と伝えられたＡくんすごい!!何でも自分一人で出来ることも良いことですが、困った時、悩んだ時、しんどい時、その思いを周りの人に伝えられること、「どうしたらいい？」と相談できることが生きていく中で大事だと実感しています。これは、ひとはで働き始めて改めて必要な力だなと思うようになりました。子どもたちにも、身につけてほしい大切な力です。

私自身はどうなのかなと振り返ってみると…主人に相談という八つ当たりをしているかもしれないと反省もありながら、色々な人に話を聞いてもらうことで心のバランスを保ち、生活出来ているなと思います。

編集後記

文尚さんの机にある電話が、すっかり増長さんの遊び道具になってしまった。椅子をズリズリ押して電話の前に座り、受話器を耳にあて、「はい、そうです？」「風邪ひいてねえ」とお母さんを真似ているかのような話ぶり。時には「こらえてあげてけえ」とも。電話を触ろうとする増長さんに「ダメ!!」といけないことはピシッと言われていた文尚さん。ごめんなさい、私は増長さんの話し口調が聞きたくて止めていません。

（竹内 宏美）

「加納さん」

（絵：三上潤子）